

研修報告

議会常任委員会全体視察

兵庫県神戸市を研修

去る10月22日（火）から24日（木）、総務民生常任委員会・教育産業常任委員会は、阪神淡路大震災の経験と教訓を学び、今後の城里町防災対策に生かすため、兵庫県神戸市において視察研修をしてまいりました。

人と防災未来センター

阪神淡路大震災の経験を語り継ぎ、その教訓を未来に生かすことを通じて、災害文化の形成、地域防災力の向上、防災政策の開発支援を図り、安全・安心な市民協働・減災社会の実現に貢献し、防災・減災の世界的拠点となることを目的に、兵庫県が国の補助を受け平成14年4月に設立した施設。年間およそ50万人の来館者があり、全国の小中高校生の防災学習の場として修学旅行にも活用されている。

館内では、4階にある「1・17シアター」において地震破壊の凄まじさを大型映像と音響で体感し、その後ジオラマ模型でリアルに再現された震災直後のまち並みを歩き、「大震災ホール」では復興に至るまでの物語を鑑賞した。また、体験談と共に展示された被災時の写真や貴重な品々、メッセー

グラフィックで解説している地震直後や復興過程の生活やまちの姿最新の情報を伝える災害情報ステーション、防災・減災ワークショップ、防災未来ギャラリー等の展示を見学した。



人と防災未来センターにて

神戸港震災メモリアルパーク

神戸港のメリケンパークの東の岸壁沿いにある阪神淡路大震災の記念施設で、平成9年9月に開設。大震災の教訓、港の重要性、日本国内外の多くの人が一体となって港の復旧・復興に努めた様子を後世に伝えようと、岸壁の一部・約60mを被災当時のままの状態で見学できる公園である。

現在のきれいな神戸の街並みからは、あの甚大な被害を被った大地震は想像できないくらい復興しているが、公園にある崩れた岸壁や傾いた街灯は、震災時のすさまじさを生々しく語っており、その被害の大きさを思い知らされた。

耐震化施設の視察調査

神戸市では、平成19年度に「神戸市耐震改修促進計画」が策定され、平成27年までに市内の建築物の耐震化率を90%以上に高めることを目標にしており、市営住宅の耐震化率については目標を92%として進められている。

このような計画のもと耐震化が進められている神戸市内の視察調査を行い、特に市営住宅について2地区ほど視察をした。入居中の住宅であるため、建物の外側に耐震補強し、筋交いがない工法で施工されていた。



神戸港震災メモリアルパーク

今回の研修で、防災・減災対策の重要性を改めて認識し、また、震災を伝承していくことも必要であると実感した。

東日本大震災を経験した本町においても、震災の記憶を風化させることなく、震災で得た様々な教訓や課題を踏まえ、災害に強いまちづくりを生かして行きたいと思う。

今後の城里町の防災対策に大いに参考となる研修であった。